

今年1年、そして2025年へ



参議院議員・薬剤師 本田 顕子

今年も残りひと月程となりました。

元日に能登半島地震が発生してから間もなく1年。全国各地で発生した大規模災害からの復旧・復興は、厳しい生活環境にありながらも被災地の皆様の強い心と全国からの温かいご協力に支えられながら、これまでもこれからも総力を上げて取り組む課題です。11月に防災庁設置準備室ができました。防災対策は元より、被災後速やかに医療体制を整えて減災につなげられる組織とすべく私も力を尽くします。

昨年10月下旬に文部科学大臣政務官兼復興大臣政務官を拝命してから1年が過ぎました。その約1ヵ月前まで議員生活で初めて政府側に身を置いて公務に勤しんだ直後の思いがけない人事でしたが、政治に志を立てたきっかけが薬学教育6年制の私にとって、文科省の一員として、衆参両院での国会対応のほか、創薬推進の基盤づくりや、研究・文化・芸術分野の最前線で活躍する皆様との関係構築などができたことは今後につながると思っています。

今年は医療、介護、障害福祉サービスのいわゆる「3報酬改定」に加えて、第8次医療計画の下で地域の実情に即した医療提供体制が動き出した年でもあり、医療政策と報酬上の評価を連動させた形で地域医療構想を実現へと導く大事な時期に当たります。引き続き、物価高対策や賃上げ対応につながる経済対策を講じつつ、地域医療介護総合確保基金の活用等を通じて薬剤師の不足・偏在を解消し、薬剤師の職能が遺憾なく発揮できる環境整備に取り組んでまいります。

総裁選、衆院総選挙と続いた大きな論戦の場において、社会保障制度に関する政策の重要性がどの程度国民の皆様が届いたかを顧みると、来年に向けて自らが伝えていく必要性を感じています。

年末には来年度予算案の編成が控え、年明けの通常国会には薬機法改正法案の提出が見込まれており、中間年改定、薬局DX、医薬品の濫用防止などへの対応が求められています。

引き続き皆様からご意見・ご指摘をいただきながら、参議院議員としての5年余りの経験と実績を生かし、来夏に向けて更にそれらを重ね続けて、国民のいのちと暮らしを守るために頑張っまいります。

本気だ！ ホンダ！！

これからもよろしくお願い申し上げます。

